

近衛文麿「東亜新秩序」と孫文「大アジア主義」との接点

【サマリー】

木村 実季

日中戦争期に三度にわたって内閣を率いた近衛文麿 と辛亥革命を率いた孫文 とには面識があり、更に相通ずるが如き理念上の交流があった。このふたりに思想上の接点があったことは、意外かつ奇異な印象を与える。一方は日中戦争 に多大な責任があると考えられる当事者であり、他方は日中戦争で近衛文麿に対峙した中国国民党の創始者だからである。

近衛文麿と孫文との思想上の関連性という問題は、「日中戦争」という複雑な性格を有する戦争を理解する上で重要なファクターになり得ると思われるが、この点に着目した研究は多くは見受けられない。

その近衛文麿は終戦の前年にあたる 1944（昭和 19）年 4 月 21 日に自身の対中交渉を回顧する談話を残している。その談話を筆記した「日支事変について」の記述を手がかりに、近衛の「東亜新秩序」という理念と孫文の「大アジア主義」との接点について考察したい。